

子どもや大人が地域社会に参加することによって様々な人と人のつながりがつくられ、その結果、地域や家庭の教育力が高まっている事例が生まれています。東京都教育委員会でも地域を舞台に学校、家庭、地域の教育力の向上をめざすための施策を進めているところです。今回の特集では、そうした取り組みをしている4人の市民の方から、貴重なお話を伺いました。



子どもの成長を地域で見守る「合宿通学」で地域に顔の見える関係をつくる～ボランティアとしてかかわる五十嵐文江さんに聞く

荒川区では、子どもたちが親元を離れ、異年齢での共同生活や地域での体験活動しながら通学する「合宿通学」を、学校毎に地域の人たちがつくる実行委員会で実施しています。荒川区立尾久小学校で行われた4泊5日の「合宿通学」にボランティアとしてかかわっている五十嵐文江さんに、この取組についてお聞きしました。

日常生活を仲間と創る中で子どもが変わる

同じ集団生活でも、合宿通学が移動教室やキャンプと違うのは、自分の住んでいる地域で泊まってそこから学校に通学するということです。昼間は学校で普段と同じように過ごしているけれど、宿泊所に帰ったら日常生活を自分たちの力で乗り切らなければなりません。大人はサポート役に徹します。

困っている時に助言したりはしますが、危険がないかぎり手出しはしない。大人がいろいろと世話を焼かないとできない特別なプログラムがあるわけではなく、「食べる」「寝る」「翌日元気に学校に行く」という日常生活ができればいいわけです。「ここが台所」「ゴミはこう捨てて」「銭湯は〇〇にあるからね」「就寝時間は〇〇時」とか必要な情報提供と他人に迷惑がかからないように最低のルールだけは伝えます。五つのグループに分かれてお食事隊、お掃除隊、買い物隊とか役割分担を決めて後は子どもに任せます。一日目は動き方がバラバラです。役割分担はしたけれど、ちゃんとやらない人がいるとかね。でも、班長が中心になってみんなが役割を果たすように動きをつくっていくんです。そうすると、二日目くらいから、だんだん一人一人にしっかりなくてはという気が起きてきます。三日目になると、みんなが共同生活の主人公になります。四日目、五日目にはもう自分たちで考えて行動するようになります。こんなに変わるものかというくらい見事に変わっていきますよ。

一緒に生活する仲間ができるっていいことなんでしょうね。ゲームもテレビもないですから、話し合う時間もあるし、遊ぶにしても一人で遊んでいても自然と会話が生まれてくる。そうするとみんなで一緒に遊ぶ工夫もするようになるわけです。「やらされている」のではなく、自分たちで日常生活をつくっていくこととするんです。自分から進んで他の仕事をしようとしたり、困っている人を助けたり、元気がない子がいると声をかけあったり、問題に気づいて解決していく。「すっごく楽しかった!また来年も来るね」という感想が多いんですが、「楽しかった」中身というのは、協力しあう仲間ができたということ、自分たちの力で生活をつくったという自信なんだと思うんです。

地域の様々な人の協力があってこそ実現できる

尾久小学校の校長先生からお話があった時に、学校行事ではなくて社会教育の行事として地域のみなさんの協力をいただいてすめたいという説明がありました。その時、私は青少年委員をしていました。商店街の理事長さん、町会の方々、PTA、「母の会」のみなさんと実行委員会をつくって話し合いが始まりました。もともと親と先生との交流が盛んな学校で、町会とか商店街の横のつながりが強い地域なのでトントン拍子に話が決まりました。地域で子どもを育てようということで様々な人が協力してくれて、実現している行事です。

商店街の朝市で子どもにお店のお手伝いを体験させてみようか、という話が出たときも理事長さんがお店に頼んでくれて実現しました。この商店街での体験は子どもたちにはインパクトがあったようです。「モノが売れないとこんなに淋しいものか」「使うのは簡単だけど稼ぐのは大変なんだ」なんて言う子がいました。多分、100円、200円の売り上げが重なって商売が成り立っていることを実感したんですね。

他人の子どもを育てるから自分の子どもも育つ

お世話になった方々と親を招いた閉校式では、子どもが手作りでサンドイッチをつくったり、子どもたちの発案でゲーム大会をしたりしました。最後に、子どもたちが一人ずつ感想を言うのですが、何人かの子どもが「お母さんの苦勞が本当によくわかった」とか「もう少し家の手伝いをしたい」とか言うわけですよ。ひとまわりたくましくなった我が子からそんな感想が出てくると、も

う大感激ですよ。それから、街で会うと子どもから声をかけてくれたり、あいさつしてくれたりするのがとてもうれしいという声が出ています。これはかかわった大人がみんな経験しています。子どもがお手伝いした商店街では、普段より賑やかになった、自分たちの仕事を理解してくれた、と言って喜んでくれました。地域に顔の見える関係、声を掛け合える関係ができる大きなきっかけになっています。

子ども同士が協力しあって感じた喜びを、かかわった大人も同じように感じているんじゃないかと思っています。自分の子どものことだけではなく、地域の大人たちが他人の子どもも育てようとした時に、初めて家庭の中だけでは身につかない力を子どもたちがつけることができた。多分「みんなで子どもを育てているんだ」ということを、成長していく子どもの姿を見ながら大人たちが実感して共有していると思います。



合宿通学(荒川区)

荒川区内の各小学校単位で町会、PTA、青少年委員、青少年対策地区委員、商店街などで実行委員会をつくり、子どもたちが平日から土日にかけての3泊4日ないし4泊5日を町会会館や商店街会館などに宿泊しながら学校に通う。実施にあたっては2～4人のボランティアが宿泊を共にし、食事の買い物、食事づくりなどの支援を行う。対象は各実施校の小学校4年生から6年生の児童で10人～30人。商店街でのお手伝いや、保育園での体験、地域清掃活動等の地域体験も行う。平成11年度から始まり、平成16年度は区内9小学校で実施。189人が参加した。



商店街の朝市のお手伝い。今年は9つのお店に協力していただいた。